科　目　名	**養護教諭実践論**		
担当教員名	教員未設定		
ナンバリング			
学　　科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学　　年		ク　ラ　ス	
開　講　期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単　位　数	
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

子どもたちの心身の健康問題等のとらえ方や解決策について、これまで学んだ科目「学校保健Ⅰ、　Ⅱ」、「養護概説」、「健康相談活動の理論及び方法」を基礎にしながら、日常等の実務に必要な具体的な方法について、主に演習により学ぶものである。

特に、学校教育法や学校保健安全法等に基づいた方法及び技術的基準、事後処理等に関する事項の具体的な方法等について演習を通じた体験学習で、養護教諭としての資質を担保するものである。

学修目標は、①学校保健安全法及び通達等による方法等の遵守、②各種関係計画等の立案に係る諸事項の理解　③養護実習時の活用の仕方

内容

(1)学校保健計画の根拠とその留意点について
(2)学校保健計画及び評価計画の実際
(3)定期健康診断実施計画立案時の留意点とその実際
(4)定期健康診断実施方法及び技術的基準とその実際(1)（身長・座高・体重測定方法、視力・聴力・色覚検査方法）
(5)定期健康診断実施方法及び技術的基準とその実際(2)（内科・眼科・耳鼻咽喉検診、尿検査、心臓検診）
(6)定期健康診断実施方法及び技術的基準とその実際(3)（問診票及び各種検診事前調査について）
(7)定期健康診断事後処理の実際
(8)健康観察の留意点とその実際
(9)保健室経営計画立案時の留意点について
(10)保健室経営計画立案の実際
(11)学校環境衛生検査の実際と学校薬剤師との連携について
(12)学校医、学校歯科医、検査機関との連携について
(13)「保健だより」作成の留意点について
(14)「保健だより」作成の実際
(15)まとめ

評価

各回による課題のレポート及び資料作成８割、通常の授業態度２割　６０点以上合格とする。
合格点に満たなかった場合は「再試験」を実施する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】采女智津江他「新養護概説」少年写真新聞社、
学校保健・安全実務研究会「学校保健実務必携第2次改訂版」第一法規株式会社

科　目　名	学校経営と学校図書館		
担当教員名	今井　福司		
ナンバリング			
学　　科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学　　年	4	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	司書教諭		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

（１）本科目は司書教諭免許を取得するための必修科目５科目のうちの１科目である。

（２）学校図書館法によれば，学校図書館は学校教育を支える基盤とされている。本科目では司書教諭を目指す受講者のために，学校教育や学校図書館に関わる基本的な知識やその背景について，講義や実践例を教員が提示しながら学ばせる。その上で知識や背景を前提としながら，学校図書館の経営について受講者各自がアイディアを提示できる場面も設けたい。

（３）本科目の目標としては以下の項目を提示する。

・単に知識を丸暗記するのではなく「構造」「固有名詞」「数字」に着目して学ぶこと。

・覚えた知識を“第三者に説明すること”を意識して学ぶこと（その知識には何が前提とされていて何を話さなくてはいけないのか）。

・学んだ知識を使って，どんな実践が可能なのかを意識して授業に臨むこと。

1点目および2点目の目標を達成するために，授業では頻繁に発言を促すので予め留意しておいてほしい（様々なレベルの質問をするので，正解不正解を気にせずに発言すること）。3点目の目標を達成するために，本科目では講義だけではなく実習を取り入れる。特に後半では任意のテーマを設定してグループ作業を行ってもらう。

なお授業進行の都合上初回に座席を指定するので，特に初回の遅刻・欠席はしないこと。加えて集中講義であるので，遅刻・欠席・早退は特段の理由がない限り行わないこと。

内容

授業は基本として以下の構成で進行するが，受講者の反応や希望，展開状況に応じて変更することがある。

（第一ブロック：学校図書館を取り巻く制度）

1．イントロダクション，学校図書館の現状の確認

2．アメリカ・日本における学校図書館の歴史とその理念・意義

3．学校図書館関係法規と位置づけ

4．学習指導要領と学校図書館

（第二ブロック：学校教育の中での学校図書館の機能）

5．学校図書館の整備I　メディアの選択と組織化

6．学校図書館の活動I　読書センターとしての活動

7．学校図書館の活動II　学習・情報センターとしての活動

8．学校図書館職員の位置づけ，司書教諭の任務と役割

9．学校図書館の経営（学校経営計画の立案，学校教育計画での位置づけ）

（第三ブロック：学校図書館実践の提案と評価)

10．学校図書館の整備II　環境整備(施設・設備)

11．学校図書館の評価と改善

12．グループ作業（作業内容については，授業中発表する。）

13．グループ作業発表会

（第四ブロック：学校図書館の展望）

14．情報化社会，生涯学習時代における学校図書館の位置づけ
15．まとめ

評価

授業参加の度合いおよび小課題の提出状況を5割の配点，そして最終試験の結果を5割の配点として，これらの点数を足し合わせて評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】
・古賀節子編　『学校経営と学校図書館』　司書教諭テキストシリーズ　第1巻　樹村房　2002
【推薦書】
・桑田てるみ編著　『思考力の鍛え方』　静岡学術出版　2010
・坂田仰，河内祥子，黒川雅子編著　『学校図書館の光と影』　八千代出版　2007

科　目　名	学校図書館メディアの構成		
担当教員名	近藤　秀二		
ナンバリング			
学　　科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学　　年	4	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	司書教諭		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

学校図書館は、生徒自身が学校図書館にある各種のメディアを有効に活用して、自ら学んでいく学習力の養成を図っていく場所である。現在の情報化社会において、「読書センター」の機能を持ちながら、「学習・情報センター」としても機能していかなければならない。

司書教諭は、今日の学習環境の変化に伴い、学校図書館で取り扱う資料「図書」や「逐次刊行物等」の紙媒体の資料だけでなく、「視聴覚資料」、「インターネット等の電子資料」や「電子書籍」などの種類とその特性を理解して、生徒にとって必要な資料を選択、収集して組織化していく必要がある。司書教諭としての実務能力を持てるように、講義だけでなく演習も加えながら、学習していく。また、 実際に学校図書館でどのような運用が行われているかも具体例を含めて説明していく。「学校図書館メディアの構成」は、学校図書館司書教諭５科目の一つである。

内容

1 授業の進め方と目標(ガイダンス)
2 学校図書館を取り巻く環境と現状
3 小学校の学校図書館の運用について（事例）
4 高校など学校図書館のレイアウト・配架方法について（事例）
5 学校図書館における資料選書の留意事項（事例）について
6 学校図書館メディアの組織化（分類）について
7 学校図書館メディアの収集方針と選書
8 学校図書館における図書館案内の作成
9 学校図書館メディアの組織化（目録）
10 学校図書館メディアの組織化（コンピュータ目録）
11 学校図書館メディアの組織化（演習）
12 学校図書館メディアの運用事例（学校図書館での授業支援）
13 学校図書館メディアの運用事例（学校図書館間・公共図書館とのネットワーク）
14 学校図書館メディアにおける著作権法
15 まとめ

評価

評価の前提として２／３以上の出席をすること（やむを得ない欠席の場合は必ず相談すること）。成績の評価は、通常の授業態度および授業中に提出する課題や小テスト（３５点）、レポートおよび演習に対する課題による評価（３５点）、試験（３０点）の結果で総合的に評価する。総合60点以上で合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 特になし(必要に応じ適宜プリント等配付します)
【参考図書】志村尚夫編著 『学校図書館メディアの構成とその組織化 改訂版』 青弓社 2009 ほか、授業でその

都度挙げて説明していく。

科　目　名	**学習指導と学校図書館**		
担当教員名	紺野　順子		
ナンバリング			
学　　科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学　　年	4	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	司書教諭		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①　科目の性格

司書教諭課程は「学校図書館」そのものについて学ぶ科目と、司書教諭としての児童生徒に対する「指導法」を学ぶ科目に大別できる。本講は児童生徒の「メディア活用能力育成のための指導」の具体的な方法を学ぶ科目である。学習情報センターとしての学校図書館の機能を発揮する上で、司書教諭５科目のうち最も中核的な科目である。

②　科目の概要

学校図書館は児童生徒の日々の学習活動、および教員の教育活動を支援し推進するという重要な任務を持っている。学校図書館の積極的・効果的な利用を図る上で、児童生徒に対し、図書館および各種メディアを活用し、自主的な学習能力・態度を育成するための指導が必要である。そのための指導原理と方法を具体的・実践的に体得し、あわせて教員に対する支援と協力についての理解を深める。

③　学修目標

１）学習活動における学校図書館の役割と機能を理解する。

２）学校図書館の各種メディアの特性と活用の方法を体得する。

３）指導内容の具体的な理解を図る。

４）児童生徒の発達段階に応じた指導計画とその展開方法を理解する。

５）教員の教育活動への支援方法を考える。

内容

1	教育課程の展開と学校図書館の役割
2	主体的学習とメディア活用能力
3	メディア活用能力育成指導の内容と指導計画
4	指導内容の探索（図書館での演習）
5	指導内容の具体的検討
6	指導内容の確認と確定（発表・討議）
7	指導計画作成のための原理
8	指導内容の体系化（グループ討議）
9	指導内容の体系化（討議結果の発表）
10	メディア活用能力育成指導の年間計画作成
11	メディア活用能力育成指導の方法
12	特定学年の１単位時間内での指導案作成
13	集団指導・個別指導の意義とその展開
14	メディア活用能力育成の個別指導と情報サービス
15	教員に対する支援と働きかけ

評価

課題についての調査および発表30%、メディア活用能力育成指導のための指導案作成40%、理解度確認のための論述レポート30%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に必要に応じて資料・プリントを配布する。

科　目　名	読書と豊かな人間性		
担当教員名	皆川　美恵子		
ナンバリング			
学　　科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学　　年	4	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	司書教諭		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

学校図書館司書教諭資格を取得したい学生に向けての必修科目である。

学校図書館においては、近年、活字離れ、読書離れが進んでいる児童・生徒の「読書」を支援することが強く求められている。読書は、言葉を学び、感情を磨き、表現力を高め、人生を深く豊かに生きていく上で、欠くことのできないものである。具体的に、どのように子どもたちの読書を支援していくかについて講義をしていく。

内容

第1回　子どもの読書についての考え方

第2回　読書と人間形成

第3回　小学校低学年の子どもの読書

第4回　小学校中学年の子どもの読書

第5回　小学校高学年の子どもの読書

第6回　中学生と読書

第7回　高校生と読書

第8回　読書資料の種類と活用

第9回　絵本

第10回　伝承文学（昔話、伝説など）

第11回　ファンタジー

第12回　リアリズム、ノンフィクション

第13回　読書体験のひろがり

第14回　学校図書館での読書環境の整備

第15回　家庭、公共図書館、地域関連機関との連携・協力

評価

授業のなかでの討議や実演など３０パーセント、レポート内容など７０パーセントで評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

赤星隆子編著『読書と豊かな人間性』樹村房

科　目　名	**情報メディアの活用**		
担当教員名	安達　一寿		
ナンバリング			
学　　科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学　　年	4	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	司書教諭		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

　本科目は、司書教諭資格を得るために必要な科目である。

②科目の概要

学校図書館の情報化の流れを概観し，メディア専門職としての司書教諭のあり方を理解する。次に，情報メディアの特性や活用方法を，実習も交えて体得する。また，情報活用能力を育成するために必要となるインターネットによる情報活用方法について学習する。同時に，著作権法や学校図書館に関わるモラル指導のあり方について解説する。

③学修目標

これからの学校図書館は、生徒の学習を支援する学習センターの機能と、生徒の情報リテラシーの育成を支援する機能が一層重要となる。そのために、従来の各種メディアや情報ソフトの整備の他に、マルチメディアに対応した情報機器やインターネット接続など、学校図書館の情報化に対する対応が求められている。このような学校図書館を経営し、生徒や教職員の情報活用能力を育成できる司書教諭になるために学習することをねらいとする。

内容

1	学校図書館の情報化の施策の流れ
2	メディア専門職としての司書教諭
3	高度情報通信社会と学校図書館
4	情報メディアの発達
5	情報メディアの特性と選択
6	視聴覚メディアの活用
7	教育用コンテンツの活用
8	データベースと情報検索
9	インターネットによる情報活用
10	インターネットによる情報発信
11	学校における情報共有
12	インターネット利用の光と影
13	著作権とメディア
14	演習・実習
15	まとめ

評価

授業内に課する演習（４課題を40%評価）と実習（４課題を50%評価）を評価し、授業への参加度（10%）を合わせて総合的に評価し、60%以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】井口磯夫編著　『情報メディアの活用』　樹村房

【参考図書】アメリカ公教育ネットワーク・ALA、足立正治・中村百合子監訳

『インフォメーション・パワーが教育を変える』　高陵社

堀田龍也著　『メディアとのつきあい方学習』　ジャストシステム

越智貢・土屋俊・水谷雅彦編　『情報倫理学』　ナカニシヤ出版

田屋裕之著　『電子メディアと図書館』　勁草書房

科　目　名	**食機能論**		
担当教員名	井手　隆		
ナンバリング			
学　　科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学　　年	4	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格：食品の持つ重要な特性として、生体の代謝、免疫系、内分泌系等を制御することにより健康の維持・増進と疾病の予防・治療に資する三次機能（生体調節機能）がある。本講義ではこの食品の三次機能に関して述べる。最新の知見を紹介するもので、理解には食品学Ⅰ・Ⅱ、食品化学の講義で習得した食品の特性に関する知識とともに、栄養学、栄養化学、人間生物化学、分子栄養学等の科目で習得した基本的知識が幅広く要求される。

②科目の概要：食品の持つ抗酸化機能、消化吸収促進機能、代謝改善機能、吸収阻害機能、微生物活性化機能、脂質代謝改善機能等について基本的メカニズム、食品成分の作用点、機能を活用した食品の実例などについて解説する。

③学習目標：

1.健康維持・疾病予防と関連する生体の代謝機構等について基本的なことがらを学び理解する

2.食品中の機能成分がどのようなメカニズムで生体調節機能を発揮するかを学び理解する

3.三次機能を活用した食品について学ぶ

4.健康の維持・疾病の予防に有効な食生活について学び理解する

内容

1	食品の機能とは
2	機能性食品の現状（栄養機能食品、特定保健用食品）
3	抗酸化機能Ⅰ（活性酸素の生成と生体への影響）
4	抗酸化機能Ⅱ（抗酸化物質）
5	抗酸化機能Ⅲ（抗酸化機能食品）
6	消化吸収促進と代謝改善機能Ⅰ（消化吸収のメカニズム）
7	消化吸収促進と代謝改善機能Ⅱ（ミネラル吸収のメカニズムと吸収促進物質）
8	消化吸収促進と代謝改善機能Ⅲ（ビタミン吸収のメカニズム）
9	難消化、吸収阻害および微生物活性化機能Ⅰ（食物繊維）
10	難消化、吸収阻害および微生物活性化機能Ⅱ（糖アルコール、オリゴ糖）
11	難消化、吸収阻害および微生物活性化機能Ⅲ（プレバイオティクスとプロバイオティクス）
12	脂質代謝改善機能Ⅰ（脂質代謝とその制御メカニズム）
13	脂質代謝改善機能Ⅱ（多価不飽和脂肪酸、大豆タンパク質、リン脂質）
14	脂質代謝改善機能Ⅲ（ジアシルグリセロール、共役リノール酸、フラボノイド、リグナン）
15	まとめ

評価

3分の2以上の出席が評価を受けるために必要である。期末試験(80%)および授業中に出す課題に対する取り組み(20%)を評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】青柳康夫編著、有田政信、太田英明、大野信子、薗田勝、辻英明共著　『改訂食品機能学[第2版]』建帛社

科　目　名	**食薬理学**		
担当教員名	梅垣　敬三、小島　彩子		
ナンバリング			
学　　科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学　　年	4	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

本科目は、養護教員一種免許取得のための教育課程における「養護に関する科目」のうち「微生物学、免疫学、薬理概論」区分に該当する選択科目である。

②科目の概要

食品成分も医薬品と同様に一つの化学物質としてとらえ、それら物質の人体に対する作用を薬理学的な観点から理解するための基礎知識を習得する。その基礎知識を踏まえて、食品と医薬品の違い、相互作用、安全性・有効性の評価に関する事項を理解し、氾濫する食品情報に適切に対応でき、さらに傷病者の栄養管理にも対応できる知識を習得する。

③学習目標

テキストに対応したプリントを随時配布する。テキストを事前によく読み、講義中はプリントの内容を補いながら講義内容を理解してほしい。学習目標は以下の３点である。

・食品と医薬品の相違について正しく理解する。

・いわゆる健康食品の安全性・有効性を踏まえた適正な利用方法を理解する。

・各種疾患で使用される治療薬について、その作用に関する基礎的な知識と、食品成分との相互作用について理解する。

内容

1	総論　食品と医薬品の特性と区分
2	総論　薬理学の基礎的知識
3	総論　食品成分および医薬品の体内動態（吸収・分布）
4	総論　食品成分および医薬品の体内動態（代謝・排泄）
5	総論　食品成分および医薬品の体内動態に影響を与える因子
6	総論　食品-医薬品相互作用の事例
7	総論　医薬品およびいわゆる健康食品による健康被害
8	総論　食品と医薬品の安全性・有効性評価
9	総論　いわゆる健康食品をとりまく現状と保健機能食品制度
10	各論　治療薬の作用機序と、薬の体内動態に影響する因子（代謝・内分泌疾患作用薬）
11	各論　同上（末梢神経および中枢神経作用薬）
12	各論　同上（循環器系作用薬）
13	各論　同上（呼吸器系作用薬および消化器系作用薬）
14	各論　同上（免疫・アレルギー系作用薬および抗感染症薬）
15	まとめ

評価

レポート（30%）、ペーパーテスト（70%）により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合

は再試験を実施する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】川添禎浩・古賀信幸編　栄養科学シリーズNEXT『栄養薬学・薬理学入門』講談社サイエンティフィク

【推薦書】安原一・小口勝司編　『わかりやすい薬理学』　ヌーヴェルヒロカワ

渡辺他編著　『クスリのことがわかる本』　地人書館　499.1/K

独立行政法人国立健康・栄養研究所監修　『健康・栄養食品アドバイザリースタッフ・テキストブック』　第一出版

田中正敏著　『薬はなぜ効くか』　講談社　491.5/T

科　目　名	**教育相談**		
担当教員名	阿子島　茂美		
ナンバリング			
学　　科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学　　年	4	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状／高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

【科目の性格】

教職に関する科目の中の「生徒指導・教育相談及び進路指導等に関する科目」に対応する。

【科目の概要】

教育相談の理論や技法等についての基礎的知識のみならず相談担当者としての資質も含め、事例も交えて具体的・体系的・総合的に学習する。

また、学校現場において、児童生徒から相談をうけた際に身につけておくべき基礎知識を解説し、個々の児童生徒の状況を把握し評価するための知識や方法についても学ぶ。

【学修目標】

教育相談の意義や理論、知識や技法等を中心にその教育実践についても学ぶ。

内容

1	教育相談とは何か
2	児童生徒の心理と発達課題に関する問題
3	児童期・思春期・青年期の人格形成と適応
4	教育相談・カウンセリングの基礎知識
5	児童生徒の行動の理解と対応　不登校Ⅰ
6	児童生徒の行動の理解と対応　不登校Ⅱ
7	児童生徒の行動の理解と対応　学習不振
8	児童生徒の行動の理解と対応　発達障害
9	児童生徒の行動の理解と対応　いじめ・非行
10	教育相談の実際(事例から学ぶ)　校内連携
11	教育相談の実際(事例から学ぶ)　家庭・地域との連携
12	教育相談の実際(事例から学ぶ)　事件事故・災害時の緊急対応
13	教員のストレス
14	教員のストレスマネジメント
15	まとめ

評価

授業中の提出物30%、試験70%により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

使用しません。

科　目　名	**養護実習Ⅰ**		
担当教員名	齋藤　千景、松野　智子		
ナンバリング			
学　　科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学　　年	4	ク　ラ　ス	
開　講　期	通年	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

養護実習開始にあたり、教育職員免許法による養護教諭の免許取得に必要となっている「養護に関する科目」、「教職に関する科目」により、これまで学んできた知識やその方法等を再度確認することや、心理学領域で学習してきた知識の活用が実習時には大きな効果をもたらすことを認識させるために、ロールプレーイングを取り入れた指導場面を設定するなどして養護教諭としての役割と責任を自覚させることを目指すものである。

学修目標は、①実習記録簿の扱い方や記入方法等を理解させる。②児童生徒を目の前にした対応時に的確な判断と対応に、自分の持っている知識や技能を発揮し適切な対応でなければならないことを認識させる。③連携の方法や必要性を再確認させる。

内容

１．事前指導

(1) 養護実習オリエンテーション

・実習の目的

・実習における勤務等の心得

・実習記録の作成法

(2)　実習中における課題の設定について

(3)　実習校訪問について

(4)　ロールプレーイングによる模擬演習

２．事後指導

(1) 養護実習報告会

・実習の総括

・課題取組内容とその成果の発表

(2) 実習校訪問

(3) 実習記録簿の提出

評価

提出物、報告会などの授業態度等を総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：「学校保健実務必携」(学校保健・安全実務研究会　編著　第一法規）

科　目　名	**養護実習Ⅱ**		
担当教員名	齋藤　千景、松野　智子		
ナンバリング			
学　　科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学　　年	4	ク　ラ　ス	
開　講　期	通年	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態		単　位　数	4
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

大学において学習した理論・技術を基礎として、実際の現場に臨んで実地に実習することにより、学校教育全体を理解し、学校保健活動と養護教諭の職務が教育活動の一環として位置付けられていることを認識しながら、養護教諭としての職務の実際にかかわり、具体的な方法や処理の仕方等を身につけることを目指すものである。

学修目標は、①実習校の教育目標などから学校の経営方針やその特徴を知る。②児童生徒への対応や判断方法など養護教諭としての執務に関する体験。③児童生徒への指導の体験。④事後措置の方法の体験。⑤他の教員や保護者等との連携方法の体験。

内容

１．学校教育活動の理解と学校保健の位置づけとその組織の理解
２．学校運営及び教職員の職務の理解
３．教職員間の連携や相互協力の機会、方法についての理解
４．養護教諭の役割と保健室経営について実務を通した理解
５．児童生徒の心身の健康実態及び健康課題の把握
６．児童生徒の心身の健康課題への対応とその措置
７．地域等の関係機関との連携について
８．学校保健計画や学校安全計画の理解とその活動
９．集団による保健指導等の実際
10．教育者としての倫理観の体得について

評価

実習校から提出される勤務記録と実習評価票の結果及び実習記録簿を総合して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：（学校保健・安全実務研究会編著　学校保健実務必携　第一法規）
「養護に関する科目」の中で養護教諭の職務等に関わる内容を整理したノートを持参すること

科　目　名	**教職演習Ⅰ**		
担当教員名			
ナンバリング			
学　　科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学　　年		ク　ラ　ス	
開　講　期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単　位　数	
資 格 関 係	養護教諭一種免許状／高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

内容

評価

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科　目　名	**栄養教諭実習Ⅰ**		
担当教員名	名倉　秀子、益子　京子		
ナンバリング			
学　　科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学　　年	4	ク　ラ　ス	
開　講　期	通年	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

栄養教諭一種免許状を取得するために必要となる科目で、栄養教育実習に係わる事前・事後の指導を中心に行なう科目である。

学校における実習が始まる前に、栄養教諭の職務内容について、知識・技術を再確認する。実習後は、自らの実習体験をもとに栄養教諭の役割について理解を深める。

学修目標は教育実習中に必要とされる指導案の作成、資料・教材の作成を計画的に取り組むことができる。また、教育実習後では、学んだ実習について発表、協議し、よりよい「食に関する指導」の提案、計画ができる。

内容

[栄養教諭実習前]　実習準備に結び付く内容を検討・確認する。

栄養教諭実習の意識や目的、心構え、実習の評価の方法、実習ノートや指導案の書き方、実習中の大学との連絡方法などを検討し、確認する。

[栄養教諭実習後]　実習体験の報告をもとに、問題点の整理、今後の課題を明確化し、栄養教諭の職務活動の展開を考える。

評価

事前・事後指導におけるレポート、指導案の取り組みにより評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

実習ノート・プリント配布

科　目　名	**栄養教諭実習Ⅱ**		
担当教員名	名倉　秀子、益子　京子		
ナンバリング			
学　　科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学　　年	4	ク　ラ　ス	
開　講　期	通年	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

栄養教諭一種免許状を取得するために必要となる科目で、栄養教諭実習Ⅰで学んだ内容を教育現場で実際に体験し、教諭としての知識、技術を確実に身につける。

栄養に関する科目、栄養教諭実習Ⅰで習得したことをふまえて、栄養教諭実習Ⅱでは、実際に学校での職務について参観し、実習を実施する。

大学で学んだ理論的、技術的な学習成果を実践し検証することができる。

内容

1．指導教諭等から学校経営、校務分掌、服務等の説明をうける。

2．児童・生徒への個別的な相談、指導の実習―指導・相談の場の参観ならびに補助をおこなう。

3．児童・生徒への教科・特別活動等における指導の実習―学級活動及び給食の時間における指導の参観ならびに補助。教科等における教科担任等と連携した指導の参観ならびに補助。給食放送指導、配膳指導、後片付け指導の参観ならびに補助。児童生徒集会、委員会活動、クラブ活動における指導の参観ならびに補助。指導計画案、指導案の立案作成、教材研究等をおこなう。

4．食に関する指導の連携・調整の実習―校内における連携・調整（学級担任、研究授業の企画立案、構内研修等）の参観ならびに補助。家庭・地域との連携・調整の参観ならびに補助等をおこなう。

評価

実習先の評価及び実習記録ノート・巡回担当者の評価をあわせ、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

実習ノート

科　目　名	**教育実習Ⅰ**		
担当教員名	片居木　英人		
ナンバリング			
学　　科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学　　年	4	ク　ラ　ス	
開　講　期	通年	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

この科目は、参観実習及び教壇実習の成果を最大限に引き出し、教職をめざす者としての責任を自覚させ、実際の授業運営能力を向上させることをねらいとする。

授業では、教科教育法や教科関連科目によって習得してきた知識・理論・方法論を踏まえた上で、実際に教育実習を行うにあたっての具体的な事前・中間・事後の指導を行う。

学修目標は,上記内容の達成である。教育実習に直接関わる科目であり、情熱と問題意識をもって積極的に取り組んでいくことが肝要である。

内容

15週の主たる内容は、次の通り。

１.事前指導

・教育実習オリエンテーション(1週)
・実習時おける勤務・服務の心得（2週）
・実習記録の作成法（3週・4週）
・配当科目についての最終的な指導案の作成（5週）
・事前模擬授業実践（6週・7週・8週）
・実習校事前訪問指導(9週)

２．中間指導

・前期実習を振り返っての反省会（10週）
・実習日誌の中間提出（確認）（11週）
・後期実習に向けての指導（12週）

３．事後指導

・実習校事後訪問指導（13週）
・教育実習報告書の作成指導（14週）
・教育自習報告会の実施(15週)

評価

授業への参加、教材研究や模擬授業課題の状況、教職をめざす者としての心構えの理解や授業運営能力などを総合的して行う。事前模擬授業実施20%、教育実習日誌内容60%、教育実習報告書作成及び報告会参加20%により評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教育実習高校で各自使用した教科書
【推薦書】推薦書及び参考図書は、必要に応じて、授業時に適宜指示する。

科　目　名	**教育実習Ⅱ**		
担当教員名	片居木　英人		
ナンバリング			
学　　科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学　　年	4	ク　ラ　ス	
開　講　期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

教育実習Ⅱは、教職科目、教科関連科目、教育実習Ⅰで習得してきた内容を踏まえて、実際に学校　現場で授業を担当し、教職をめざす者としての総合的力量を身につけることをねらいとする。

趣旨（概要）としては、これまで習得してきた教科・授業方法等に関する知識を主体的・実践的なレベルに転換し、学校現場での実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性や能力を自己覚知することにある。

学修目標は、上記の内容・課題への到達である。なお本科目は、教員免許法に定める「教育実習」のうち、高等学校一種「福祉」（３週間以上の実習期間の者を対象とする）の増加単位（選択）の２単位分に対応する。

内容

教育実習校における３週間以上の授業担当による教育実習を行う。

評価

実習校からの評価資料60%、研究授業実践状況20%、「実習日誌」等の資料20%ととし、評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教育実習校で各自使用する教科書

【推薦書】推薦書及び参考図書については、必要に応じて、適宜指示する。

科　目　名	**教育実習Ⅲ**		
担当教員名	片居木　英人		
ナンバリング			
学　　科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学　　年	4	ク　ラ　ス	
開　講　期	通年	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

教育実習Ⅲは、実際に学校現場で授業を担当する。これまで習得してきた教科・授業方法等に関する知識を主体的・実践的なレベルに転換し、教職をめざす者としての総合的力量を身につけることをねらいとする。

趣旨（概要）は、教職科目、教科関連科目、教育実習Ⅰで学修してきた内容を踏まえて、学校現場での実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性や能力を自己覚知することにある。

学修目標は,上記の内容。課題への到達にある。なお本科目は、教員免許法に定める「教育実習」のうち、高等学校一種「福祉」で必修とされる２単位分に対応する。

内容

実習校における２週間の授業担当による教育実習を行う。

評価

実習校からの評価資料60%、研究授業実践状況20%、「実習日誌」等の資料20%ととし、評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教育実習校で各自使用する教科書

【推薦書】推薦書及び参考図書については、必要に応じて、適宜指示する。

科　目　名	**教職実践演習（栄養教諭）**		
担当教員名	狩野　浩二、岩井　雄一、高橋　京子、増田　吉史 他		
ナンバリング			
学　　科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学　　年	4	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

内容

評価

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科　目　名	**教職実践演習（中・高）**		
担当教員名	向後　朋美、安達　一寿、島村　豊博、亀田　温子 他		
ナンバリング			
学　　科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学　　年	4	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①教職課程での学びの集大成として，将来教員になる上での自らの課題の発見，不足している知識や技能の補完と定着をねらいとして，教職生活を円滑にスタートするために必要な演習を行う。

②授業内容は，(i)使命感や責任感，教育的愛情に関する事項，(ii)社会性や対人間関係能力に関する事項，(iii)生徒理解や学級経営に関する事項，(iv)教科内容等の指導力に関する事項で構成する。

内容

1	オリエンテーション，これまでの教職課程の振り返る（講義，全体討議）
2	教職の意義・役割・職務内容，子どもに対する責任について理解する
3	教育に関する問題点，社会からの要請を考える（調査演習・グループ討議）
4	教育に関する問題点・自らの課題を発見する（現地調査）
5	自己課題とテーマを発表する（プレゼンテーション，レポート）
6	生徒の生活環境・教育環境を知る（グループ調査演習，事例研究）
7	現在の生徒像からみた望ましい学級経営案の検討（グループ討議・イベント企画）
8	生徒の進路指導に関わる社会情勢の調査と理解（グループ調査演習・ロールプレイ）
9	学級経営案を発表する（プレゼンテーション，レポート）
10	教育実習の振り返りと教科の指導力を考える（講義，グループ討議）
11	教育内容の基本的事項の確認（個人演習）
12	教育方法の基本的事項の確認（個人演習）
13	模擬授業
14	模擬授業
15	レポート

評価

レポート課題（３回程度），プレゼンテーション，討議におけるパフォーマンスを総合的に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

特に指定しない

科　目　名	教職実践演習（養護教諭）		
担当教員名	綿井　雅康、松野　智子		
ナンバリング			
学　　科	人間生活学部（H）-教職課程・司書教諭課程科目		
学　　年	4	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性質

　教職課程（養護教諭）の教職に関する科目での必修科目であり、養護実習を終えたことを前提として履修し学習する科目である。

②科目の概要

　教員として、①使命感や責任感、教育的愛情に関する事項、②社会性や対人間関係能力に関する事項、③生徒理解や学校・学級経営に関する事項、④養護教諭としての指導力に関する事項で構成する。また、教職・養護に関する科目を担当する教員が連携して、学生の補完すべき課題の様相や養護教諭としての実践力向上への取り組みについて共通理解と情報共有を図りつつ、指導を行う。

③学修目標

　教職課程での学びの集大成として、受講生の履修履歴に基づき、教員になる上での自らの課題の発見、不足している知識や技能の補完と定着をねらいとして、養護教諭としての実践力向上に必要な演習を行う。

内容

第１回：オリエンテーション，これまでの教職課程の振り返る（講義，全体討議）
第２回：教職の意義・役割・職務内容，子どもに対する責任について理解する
　　（教職勤務経験者による講義）
第３回：教育に関する問題点，社会からの要請を考える（調査演習・グループ討議）
第４回：教育に関する問題点をふまえ自らの課題を発見する（現地調査）
第５回：自己課題とテーマを発表する（プレゼンテーション，レポート）
第６回：児童生徒の生活環境・教育環境を知る（グループ調査演習、事例研究）
第７回：生徒指導に関わる生活環境・社会状況に関する現代的課題の理解
　　（グループ調査演習、事例研究）
第８回：児童生徒の現代的な健康課題の理解とその解決への取り組みの検討
　　（グループ調査演習、事例研究）
第９回：保健室経営計画に関する講義と演習（講義と演習、全体・グループ）
第10回：現代的な健康課題を踏まえた保健室経営計画案の検討（演習・討議、ロールプレイ）
第11回：教育実習の振り返りと養護教諭としての指導力・実践力を考える（講義，グループ討議）
第12回：教育内容の基本的事項の確認（個人演習）
第13回：模擬授業、模擬場面指導
第14回：模擬授業、模擬場面指導
第15回：成果の発表（発表、全体）

評価

演習での学習活動及び提出物により評価を行う。評価の基準は、各自が設定した課題に対する取り組み状況とその成果が、

現場の実情に即して資質の向上につながっているという点である。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜指示する。